私とあなたの赤い糸はどんな赤色より赤く・・・

AKIRA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
私とあなたの赤い糸はどんな赤色より赤く・・・

【Ｎコード】
Ｎ２０４０Ｂ

【作者名】
ＡＫＩＲＡ

【あらすじ】
私はあなたを愛しています。でもそんな私の気持を知ってか知らずか、あなたは私を無視してばかり。どうしてなの？

（前書き）

この小説はテーマ小説の『色小説』です。小説検索に『色小説』と入れると他の作者様方の小説もごらんになれます。
あなたもこんな風になったらどうしますか。

私はあなたの前に座る。
「おはよう」
あなたに挨拶をしたが返ってこない。ちょっと声が小さかったかしら。あなたは朝食を取るのに夢中みたい。
もう一度言ってみようと思ったけどやめた。多分返ってこないと思うから。
私は朝食を取らず、あなたが食べ終わるのを待つ。その間テレビのニュースを見ていた。
あら？『もめてた二人の論争に決着！歌手と漫画家の間で起こった事件は歌手に軍配が上がった』か。ふふふ、どうでもいいけど二人とも本職はどうしたのかしら。歌手の人、私は大好きなのに。早く次の曲聞きたいわ。
「ねぇ、どう思う？」
あなたの方を見ると、いつの間にか朝食を食べ終え、キッチンにお皿を持っていっていた。
もう！話ぐらい聞いてよ！と頬を膨らませ態度で表していた。それなのにあなたは気にも止めず部屋に向かう。

しばらくしてあなたはスーツを着て出てきた。
今日はお休みだけど何の日だったかしら？
悩んでいるとあなたは玄関を出て、車に乗り込む。私も急いで助手席に乗り込む。
あなたの運転は結構乱暴なのよね。すぐ遅い車を追い抜こうとしたり、赤になりそうな交差点に突っ込んでいったり。隣の私はいつも冷や汗が出っぱなし。
でも今日は安全運転みたいね。安心だわ。

少し走って、花屋の前で車を止めるあなた。車を降りて花を選び始める。私の好きな花、『花水木』を選んでくれた。その花どうするつもりなのかな。

また車に乗り込んで走り始める。運転してる間、ずっと黙り込んでいる。

何か話そうよ！そう思っていると、あなたは急に鼻歌を歌いだす。でも楽しそうではない。何かを思うように歌っていた。

目的地に着いたよう。車を止め、花を持って出る。

どこ行くの？私も続いて車を出る。

ここは…

交差点……

――――

――――――

――――――――

『キキーーーーー！』

タイヤのスリップ痕。その先には車の片方が原形を留めず、無残な形になっていた。

あなたの方は無事だった様子。現状がつかめず、普通にドアを出て自分の車を見た。そして私のいるはずの助手席を見て全てを把握

したようだ。

「真美！！」

「…隼君、体が…痛いよ…」

「大丈夫か？！今助けるからな？！」

しばらくして助け出された私は、体のあちこちの骨が折れていて、口から血を吐いていた。

「真美、しっかりしろ！真美！」

「…隼君、…ゴメン…ね？一緒に結婚式……出来なくて…」

「何も言わなくていい！！もうすぐ救急車が来るから！」

「…う……ん…」

「真美？おい、真美！しっかりしろ！」

――――――――

――――――

――――

そう、私はここで死んだんだ。３日後に結婚式を控えた日に。

そして今日が私の命日。

「私のために来てくれたんだ。隼君、ありがとう」
その声に気付く事も無く、あなたは買った花を信号機の電柱の下に添える。
「ゴメンな？真美…」
あなたはそう言いながら、目からぼろぼろと涙を流していた。
「あれから…あれから何度も君を追うために…自殺しようとした。でも…出来なかった。本当にゴメン。こんな僕で…」
そんな事言わないで。私はあなたに抱きつこうとしたがそれは叶わない。
すり抜ける私の手。私も悲しみがあふれ、涙が流れた。

私の事でそんなに悲しまないで下さい。
そんな悲しい顔をするあなたを見ると、私の方が悲しくなります。

だから・・・だから・・・・、

「泣かないで」

「真…美？」
あなたは声が届いたのかその言葉に反応した。
「真美なのか？何処にいるんだ？」
姿が見えない私を探し、虚空を見つめるあなた。
「気のせいか…。いや、でもあの声は確かに…」
そうだよ。私だよ。
「…許してくれてありがとう。本当に…ありがとう、真美。そして僕を愛してくれて…。僕もずっと愛してる。これからも…ずっと…。だからもう…泣かない…」
叫び終わったあなたは人目をはばからず泣いた。泣き続けた。
言った側から約束破って・・・。
そう言った私も泣いていた。

いつかあなたが死んでしまう時まで、私はあなたを見守りつづけます。
だから悲しまないで下さい。

愛の誓いに『2人を死で別つ時まで愛しつづけますか？』と言うのがあるけど、私は守れない。
死んでしまった私は今もあなたが好きだから…。

（後書き）

あなたも死んでからも愛する人を愛しつづける事が出来ますか？と言う気持ちで作りました。
どうだったでしょうか？評価の方お待ちしています。
ＡＫＩＲＡでした。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2040b/

私とあなたの赤い糸はどんな赤色より赤く・・・

2010年12月17日14時53分発行